

乳児期からの長期ステロイド使用後に入院と再燃を経て職場復帰した成人アトピーの経過 (36 歳 男性)

症例 ID：001-30-NMi | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

乳児期からアトピーがあり、3～4 歳頃から約 30 年以上ステロイド外用を続けました。小児喘息もありましたが、中学頃に喘息が治まる一方で皮膚症状が強くなりました。

成人後は全身へ広がり、ヘルペス、微熱、下痢、皮膚の菲薄化と入浴後の激痛がみられ、仕事ができない状態となりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	3～4 歳頃から全身にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	複数使用。詳細は不明です。
強度	長期かつ大量の使用歴があります。
使用期間	約 30 年以上です。
中止時期	36 歳頃の松本医院受診時です。
来院前／後	来院前に非常に長期の使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期～成人期	長期経過	皮膚症状に対して長年ステロイド外用を続けました。
36 歳頃	治療開始	全身症状と就労困難のため松本医院を受診しました。
開始 3 日頃	急激な悪化	全身の腫れ、浸出液、高熱が出ました。
入院期	重症期	感染症、高熱、低蛋白状態により約 3 か月入院しました。
退院後 4 か月	自宅療養	浸出液が残る中で療養を続けました。
開始 7 か月半	職場復帰	会社へ復帰しました。
復帰翌月	再燃	上半身から浸出液が噴出し、再度休職しました。
再燃後約 4 か月	回復傾向	運動と薬浴を続け、12 月から再び職場復帰予定となりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始直後に全身の腫れ、大量の浸出液、高熱、感染症、低蛋白状態が重なり、長期入院となった時期です。

5. 困りごと

- ・約 3 か月の入院と 4 か月の自宅療養が必要でした。
- ・大量の浸出液と高熱により点滴や血漿投与が必要となりました。
- ・一度職場復帰した後に再燃し、再び休職しました。

6. 経過のまとめ

治療開始 7 か月半後に一度職場復帰し、その後の再燃で再休職しました。

再燃後は運動と薬浴を続け、治療開始約 1 年 2 か月時点で再び職場復帰できる状態となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。